

## 令和5年度 和歌山県立紀伊風土記の丘博物館評価の報告

<p>和歌山県立紀伊風土記の丘館長による評価</p>	<p>古墳群の保存整備・公開では、令和2年度に策定した特別史跡岩橋千塚古墳群第3期整備事業計画に基づき整備事業を推進してきたが、国庫補助金の減少に伴う年度事業の規模縮小、新館建設計画の立上げ等により当初の計画どおりの進行が困難になったため第3期整備計画後半部の見直しを行った。その結果、第3期では初期整備古墳の不具合対応と天王塚古墳の整備を優先し、大日山35号墳の墳丘整備は第4期整備に組み込むこととした。令和5年度は、大日山35号墳の石室滞水対策工事完了、天王塚古墳の墳丘整備工事着手、竪穴系埋葬施設の実施設計及び古墳修景工事等を計画通り行った。また、県立博物館及び県立近代美術館と連携して和歌山県博物館デジタル化計画を実施中で、資料の3次データ取得等を進めているほか、接合部の劣化が進んでいる重要文化財大日山35号墳出土品の埴輪について解体修理を行っている。</p> <p>資料の収集・保存では、『和歌山県立紀伊風土記の丘資料受領・受託判断基準』等を定め、適正な資料収集を行うとともに、収蔵資料の台帳作成等整理を行い新館開館に向けた準備を進めている。</p> <p>調査・研究では、特別展1回・企画展3回を実施し、その開催に先立ち関連資料調査及び研究のほか、外部機関と協同調査を実施した。</p> <p>教育・普及では、小学校等へ直接出向いて行う出前授業の開催回数が大幅に減少したが、体験学習等は、コロナ禍以後、定員を従来の水準に戻したため、参加者数は前年度より大幅に増加した。「ふどきっず」の定着率も良く、体験学習事業の手ごたえと、継続していく必要性を感じている。また、岩橋千塚古墳群魅力発信事業として、大阪梅田にてシンポジウム「特別史跡の古墳群を語る－岩橋千塚・埼玉・西都原の価値と魅力－」と現地へのバスツアーを開催し、多数の人々にその魅力を発信することができた。今後も県外の認知度を高める事業を企画していきたい。</p> <p>新館建設事業では造成、建築、展示・設備の実施設計を行った。今後、各実施設計を確実に進め、令和10年度の新館開館に向けた作業を進める。併せてこれらの施設と特別史跡を適正に管理活用し、紀伊風土記の丘として一体的な運営を行う。</p> <p>十分な体制ではない状況においても、岩橋千塚古墳群の保存整備・公開、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育・普及、運営などの業務を積極的に推進していると評価できる。</p>
----------------------------	---

評価部会による評価	<p>当館の事業全体を見たとき、限られた予算と人員等様々な課題を抱えながらも的確に対応し確実に前進していることを高く評価する。しかも史跡指定地の追加指定、新館建設といった施策が進められることは、たいへん喜ばしいことである。ただし、20年・30年後の日本、和歌山県の状況を鑑みた場合、今から館の持続可能性、コスト意識を持ちながら諸事業を進める意識をもつことが重要である。</p> <p>当館の事業の柱である岩橋千塚古墳群の保存整備・公開が当初計画通りに進んでいない点は残念であるが、国庫補助金の確保や人的資源の充実などの課題を解決して成果が出されることを期待している。</p> <p>岩橋千塚古墳群の魅力を全国に発信するシンポジウム及びバスツアーはきわめて意欲的な試みであり、盛況のうちに終わったことは喜ばしい。参加者多数という良好な結果も合わせて新しい活動方向も示している。マンパワーの問題はあるものの、他機関との連携による新たな切り口からの魅力発信法として期待される。ただしこの事業は継続によってさらなる成果が上がるもので、今後の取り組みを注視したい。</p> <p>調査・研究面では、特に評価すべき点として、強い学術的な意識の元に行われた特別展企画をあげたい。成果を一般の方々にどのように伝えるのかという点には課題があるが、きちんとした学術研究を基盤とした高度な取り組みの継続が期待できる。また、外部の研究機関と連携した調査・研究も進めていかねばならない。</p> <p>新館建設事業はもちろん、当館で取り組んでいる各事業は経費の確保に加えて、学芸及び管理に係る人的資源の充実が欠かせない点を強調しておきたい。とくに新館の建設は、和歌山県が目指す観光立県の方針を内外に示すものとして注目されるはずである。</p>
-----------	--

## 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

<p>館長による所見</p>	<p>進行中の第 3 期整備においては、国庫補助金の減少による単年度事業規模の縮小や、新館建設計画の進行及び県文化遺産課による第 4 次追加指定事業の本格化等、計画策定時から大きく情勢が変化した。これに対応して、確実な整備を実現するために、岩橋千塚古墳群整備検討会議及び文化庁等関係機関の承認を得て計画の改定を行った。</p> <p>天王塚古墳は工事中仮設道路の設置を終え、墳丘整備に着手した。大日山 35 号墳では、滞水対策工事を完了し石室の保存環境の安定化を図った。露天公開で土砂が堆積する不具合のあった竪穴系埋葬施設については、令和 6 年度の保存整備工事の実施に向け実施設計を行った。また、倒木による毀損の進行が懸念される前山 B78 号墳は石室を埋め戻し修景工事を行った。</p> <p>日常的な管理においても、来園者の安全を確保しつつ、計画的に実施している。</p> <p>以上、計画に準拠して古墳の保存及び活用のための整備事業を推進することができた。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>史跡公園及び博物館の運営に関わる多様な業務に対して、必ずしも十分とは言えない体制のなかで最大限の取組をしている。計画に準拠して古墳の保存及び活用のための整備事業を推進していることは評価できる。新たに発生するさまざまな課題に対しても適切な対応がなされている。</p> <p>岩橋千塚古墳群の保存整備・公開を全国に PR するためのシンポジウムと見学会が、大変盛会であったことが喜ばしい。開催に向けて多くのエネルギーと経費が必要なことは容易に理解できるが、今後もこのような企画が実施されることを強く期待する。</p>

### ①古墳群の維持管理

#### A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

<p>令和 5 年度目標</p>	<p>館の業務員により月・週単位で計画的に実施している。急を要する場所が出た場合は優先的に実施する。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施する。</p>
------------------	---

自己評価・課題・改善策	<p>業務員による日常的な園内の管理・清掃により美観が保たれており、園内を周遊する来園者に好評である。</p> <p>台風等による土砂の流出にも対応しているが、園路は広範囲であり、優先順位をつけ、予算内において補修・整備をしている。</p>
-------------	--

#### B. 古墳群の日常的な保守管理

令和5年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施する。特に草木の伐採は、その希少性などにも配慮しながら優先順位をつけて実施する。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。
自己評価・課題・改善策	<p>草木の伐採は、年間でスケジュールを組んで計画的に行っている。</p> <p>多数ある公開古墳周辺を中心に、草木の伐採を実施した。</p> <p>伐採に際しては、植物担当の専門員と十分調整のうえ実施している。</p>

#### ②保存・整備

##### A. 使命・計画に基づいた保存整備

令和5年度目標	整備検討会及び文化庁の指導を得て、策定時以降の情勢に対応した第3期整備計画の改訂を実施する。さらに、第3期整備計画改訂に基づき、令和5年度の整備事業を遺漏なく実施する。
自己評価・課題・改善策	<p>整備検討会を2回開催するとともに、文化庁担当官による現地指導を1回実施し、その内容を第3期整備計画の改定に反映した。</p> <p>これと並行して令和5年度の整備事業を遺漏なく実施することができた。</p>

##### B. 古墳群の整備・修景

令和5年度目標	天王塚古墳の整備に向けた仮設道路設置などの準備工事を完了し、墳丘整備工事に着手する。崩壊の危険がある古墳の埋め戻しを行う保存修景工事、石室滞水対策工事を各1件以上、実施する。事業は国庫補助金を得て実施する。
自己評価・課題・改善策	<p>天王塚古墳連絡道路及び仮設道路が台風2号及び梅雨前線に係る大雨により被災し、その復旧に約6か月を要したため、令和5年度中の完成は困難となった。予算を繰り越し令和6年6月末まで期間延長するなど、適切な対応で現在墳丘整備工事を実施することができた。</p> <p>この他に、大日山35号墳の石室耐水工事を行うとともに、毀損が拡大する可能性のある前山B78号墳の埋め戻しを実施し、予定通り完了することができた。</p>

### C. 展示及びその他の博物館活動への反映

令和5年度目標	整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに、教育記者クラブ等への資料提供などにより県民及び県外への広報を行う。
自己評価・課題・改善策	日常的に、特別展及び企画展、講座や体験イベントへ整備内容を反映している。 また、令和3年度の東京開催に続き、大阪梅田で岩橋千塚古墳群の魅力発信事業としてシンポジウム「特別史跡の古墳群を語るー岩橋千塚・埼玉・西都原の価値と魅力ー」を行い、来場者約400名、ライブ配信視聴約200名の参加があった。翌日はシンポジウム参加者のうち約40名をバスツアーで現地案内した。岩橋千塚古墳群の全国的な知名度の向上、現地見学によるファンの獲得などの魅力発信を行うことができた。今後も県外に向けた広報活動を進めていきたい。

### D. 学術的公表（報告書等）がなされているか

令和5年度目標	年報・紀要に学術的公表を含む報告を掲載する。
自己評価・課題・改善策	『令和5年度紀伊風土記の丘年報』第50号・『紀伊風土記の丘研究紀要』第12号を刊行し、出土品に関する分析等について掲載した。

### E. 古墳群の管理

令和5年度目標	古墳カルテの更新、石室のモニタリングを計画どおり実施する。
自己評価・課題・改善策	古墳カルテは翌年度の更新を予定しており、継続的に実施していく。石室のモニタリングは、石室デジタルデータを取得しながら実施頻度の改善や気候条件を勘案した調査を実施した。今後、計画どおりの頻度での実施を目指す。

## ③公開・活用

### A. 計画的な公開

令和5年度目標	公開古墳は、引き続き石室等を安全に見学できるように対応する。非公開古墳は、期日を定めていずれかの石室を1回以上公開する。
自己評価・課題・改善策	4/23、前山A地区のガイドツアーの中で前山A67号墳の石室を特別公開し29名が参加した。1/28のガイドツアーでは5年ぶりに郡長塚古墳の石室公開を行い28名の参加があった。3/3には、滞水対策工事が完了した大日山35号墳石室の限定公開を実施し、88名の参加があった。この他、バスガイドツアー（参加者43名）などで天王塚古墳の石室を特別公開した。安全性を確保し公開を実施することができた。

## B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

令和5年度目標	園路設置の意見箱を活用するとともに、来館者へのアンケートで整備に関する意見と満足度とニーズの把握に努める。
自己評価・課題・改善策	特段の意見はみられなかったが、散策者や学校関係者等から、古墳群の見学・体験について高い評価を得ている。

## C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

令和5年度目標	アンケート分析結果の必要な内容を抽出し、必要に応じて次期整備計画に反映する。
自己評価・課題・改善策	日頃からイベントなどで行っているアンケートのほか、公開活用事業へ反映できる意見を抽出できるよう聞き取り調査を進める。

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

<p>館長による所見</p>	<p>『紀伊風土記の丘資料館資料収集方針運用指針』、『和歌山県立紀伊風土記の丘資料受領・受託判断基準』、『和歌山県立紀伊風土記の丘資料館資料収集方針』を定めるとともに、新館建設の展示計画に鑑みて寄贈の受入れを積極的に進める等、新館建設を見据えた計画的な活動を展開した。</p> <p>館蔵品については、展示室、新収蔵庫への移動を見据えて台帳作成等資料整理を進めた。今後も収蔵・保存は、新館建設事業の中で実施し、県教育委員会と協力して良好な保存環境を確保していく予定である。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>博物館活動の基本となる資料の収集・保存が順調に行われていることを評価する。収集方針はすべての博物館が定めているが、資料の受領・受託判断基準を作成しているところはほとんどなく、高く評価される。他館の範になろう。民俗資料の廃棄が博物館や学会などで問題になっている今、大いに注目されるはずである。</p> <p>資料収集については取捨選択の十分な検討が必要であろうが基本方針にのっとって進められたい。台帳整備は可及的速やかに進められ、新館完成時には完備されていることを願う。</p> <p>収蔵品については、新館の収蔵庫に相当の容量があるようだが、昨今の状況を見ると、すでに収められている収蔵品についての「価値」の再点検をしておくことも重要ではないかと思う。</p>

### ①資料収集

#### A. 適切な手続きに基づく資料の収集

<p>令和5年度目標</p>	<p>適正な手続きに基づき、新館建設の展示計画に鑑みて資料を積極的に収集する。受贈基準並びに資料収集方針について、令和5年度中の策定に向けて検討を進める。</p>
<p>自己評価・課題・改善策</p>	<p>考古資料では2件、民俗資料では4件の寄贈を受けた。寄贈申出があった場合の受贈基準及び資料収集方針について、協議会の意見を受け検討を進めた結果、令和6年3月23日に『紀伊風土記の丘資料館資料収集方針運用指針』、『和歌山県立紀伊風土記の丘資料受領・受託判断基準』、『和歌山県立紀伊風土記の丘資料館資料収集方針』を定め運用を開始した。</p>

## ②資料の保存

### A. 資料の保存環境は適切か

令和5年度目標	温湿度データを年間通じて取得する。壁面ケース等湿度管理の出来ない展示ケースで異常値が確認された場合は、その解消に向けて柔軟に対応を行う。
自己評価・課題・改善策	年間を通して温湿度データを取得した。特別展等で借用する資料のうち、特に温湿度管理の必要な金属製品・木製品、文献史料等についてはエアタイトケースを使用した。

### B. 資料の保存処理

令和5年度目標	保存処理が必要な金属器等資料のリストのうち、保存処理の優先度の高い資料は予算状況に応じて順次保存処理を実施する。保存処理の優先順位が低い資料50点以上を、RPシステムにより応急措置を実施、金属収蔵室での保管作業を実施する。
自己評価・課題・改善策	金属製品は、金属収蔵室で保管している。保存処理未実施資料等のうち、考古資料891点をRPシステムにより脱酸素・低湿度での保管環境を確保した。今後、計画的に保存処理の実施及び適切な保管作業を実施する。

### C. 資料の整理

令和5年度目標	収蔵資料の再整理を行う。西庄遺跡の出土資料は、資料目録の作成を令和5年度中に完了するとともに、文化庁文化財調査官による整理指導を1回以上実施し、令和10年度の重要文化財指定に向けて作業を進める。
自己評価・課題・改善策	西庄遺跡出土資料の重要文化財指定のため、リスト確認・修正、追加リストを作成し、文化庁文化財調査官による整理指導を1回受けた。令和6年度にも文化庁文化財調査官による重要考古資料に係る整理指導を受け、令和10年度の重要文化財指定を目指して作業を進める予定である。 また、接合部の劣化が進んでいる重要文化財大日山35号墳出土品の埴輪について、令和4年度から専門業者に委託して解体修理を行っている。その他の収蔵品についても、新館建設を見据え適正に整理を進めている。

## ③資料の管理

### A. 資料の点検

令和5年度目標	毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検チェックを行う。
自己評価・課題・改善策	展示室・収蔵庫内の資料及び展示・収納ケース内に異常のないことを目視で点検するとともに、機材を用いて温湿度を点検した。

## B. 資料の管理（台帳、データ）

令和5年度目標	令和8年度までに台帳・データベースを作成し、管理を行う。考古資料は台帳未作成のコンテナ94箱のうち、20箱の台帳作成並びに紙媒体台帳のデジタル化を実施する。民俗資料は未整理の資料約1,500点のうち、500点の台帳作成を実施する。
自己評価・課題・改善策	考古資料は台帳未作成のコンテナ94箱のうち、30箱の台帳作成を実施した。民俗資料は館蔵の未整理資料約2,600点のうち、170点の台帳作成、新収蔵候補資料320点のデータ整理を行った。また、令和5年度受贈した民俗資料1件、計7点の目録を作成した。

## ④資料の活用

### A. 他機関への資料の貸出

令和5年度目標	他機関への収蔵文化財の貸出を2件以上行い、収蔵文化財の活用を推進する。
自己評価・課題・改善策	紀の川市へ黒土古墳出土品、かつらぎ町教育委員会へ佐野廃寺出土品、岩出市教育委員会へ根来寺遺跡出土品、和歌山市立博物館へ船戸箱山古墳群出土品等とともに写真の貸出も実施した。

### B. 図書の収蔵

令和5年度目標	報告書等の寄贈図書について再整理を行い、使用頻度の低い図書を収納しスペースを確保することにより効率的な活用ができるよう整備するとともに、新館開館時の配架の検討を行う。
自己評価・課題・改善策	寄贈図書は、押印、リスト登録を行って、活用に備えている。使用頻度の高い図書は、常時活用できる状態で保管し、活用頻度の低い図書は収納のうえ、保管している。令和7年度までには、新館開館時の配架について検討する。

### C. 資料のデータベースの公開

令和5年度目標	館収蔵品や古墳群の三次元データ取得や高精度写真撮影を積極的に進め、ホームページ上に設置したサイトに100点以上のデータ掲載し、公開を促進する。
自己評価・課題・改善策	県立博物館及び県立近代美術館と連携して和歌山県博物館デジタル化計画を実施中で、資料の3次データ取得等を進めながら、ホームページ上にサイトを公開し、考古資料約100点のデータベースのほか、古墳約25基の横穴式石室三次元データ又は墳丘等の写真の公開を実施した。ホームページ掲載写真は、申請を要さず利用可能とすることで、写真の利用促進を期待している。 このほか、郡長塚古墳、前山A13号墳、前山A24号墳、大谷山16号墳の4古墳の三次元データの取得を行った。

### 3. 調査・研究及び展示・公開

<p>館長による所見</p>	<p>特別展、企画展とそれに関連する調査・研究については、ほぼ計画どおり実施できている。特別展は、6～7世紀の畿内と紀伊の古墳群や古代寺院などから出土した考古資料に焦点をあて、律令国家への社会変化とその変化が紀伊の古代社会の成立に与えた影響を紹介した。企画展は、「紀伊の地を馬が駆ける」、「紀伊半島の東と西－縄文・弥生時代の地域性－」、「黒江・商家のくらしと漆器」について展示を行った。</p> <p>学芸部門の人的配置を踏まえて、考古学3回、民俗学1回の特別展及び企画展を計画どおり開催したが、一方でマンパワー不足の問題も抱えており、予算上も図録を作成できない状況にある。</p> <p>適正な展示・公開のためにも、日々調査・研究ができる環境を整えていく必要がある。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>限られた体制（予算・人員）のなかで、質の高い特別展・企画展が実施されたことは実際にいくつかの展示を見学させていただき確認している。ただし、図録・リーフレット等が後に残る成果物となるので、年間の計画の中でこれらをどう配分するか、検討すべきである。特に特別展に関しては毎年学術的にも高度で意欲的な内容の展示が続いており、調査研究活動の成果がよく示されている。</p> <p>調査研究機能については、多くの博物館で人的資源と財務の両面で困難に直面している。当館の場合、とくに民俗分野の学芸員が一人という点は問題である。考古・民俗に特化した博物館を目指す当館にあって、準備段階で複数人の配置を実現していただきたい。</p> <p>考古・民俗とも学芸員の多忙さは、理解を越えているものがある。行政職ではなく研究職であることを前提として考えるべきであり、研究活動に十分な時間が取れるように配慮されたい。</p>

#### 3-1. 調査・研究

##### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

<p>令和5年度目標</p>	<p>文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行う。</p>
<p>自己評価・課題・改善策</p>	<p>特別展「律令国家の成立前夜」の展示に関連する悉皆調査及び研究を行った。この他、企画展の開催に関連して、調査研究を行った。展覧会に係る調査研究以外の基礎的調査や研究を実施可能な体制整備が今後の課題である。</p>

## B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

令和5年度目標	他業務とのバランスをみて、実施を積極的に検討する。
自己評価・課題・改善策	京都橘大学中久保辰夫准教授が進める研究テーマ「土器使用痕記録手法の先導的開発と日本古代米食調理法の復元」(味の素食の文化センター「食の文化研究助成」)、古墳時代の調理方法に係る実験考古学に協力した。 特定国立研究開発法人産業技術総合研究所と独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が推進する文化財デジタルツインプロジェクトに協力し、古墳群の三次元計測や三次元計測データの活用事業に関与した。

### ②調査・研究成果の活用

#### A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

令和5年度目標	調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県民に広報する。
自己評価・課題・改善策	各企画展の展示講座と特別展シンポジウム6回、展示解説を計2回開催し、展示内容を広く県民に広報した。 今後も、展示への理解が深まるよう努め、展示関連イベントを企画する。

#### B. 学術的公表（館研究紀要、学会誌等）

令和5年度目標	館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。
自己評価・課題・改善策	『紀伊風土記の丘研究紀要』第12号を刊行し、調査研究成果を5本掲載した。このほか、『紀伊風土記の丘年報』第50号を刊行し、整備事業に係る調査成果1件を掲載した。

## 3-2. 展示・講演

### ①常設展

#### A. 計画的な展示替え

令和5年度目標	特別展後などの期間を利用し、岩橋千塚古墳群を中心としながらも考古資料による通史、県内の民俗文化財を把握できる展示とする。
自己評価・課題・改善策	企画展・特別展以外に、ロビーを利用してパネル展2回・ミニ展示2回の計4回の展示を実施した。このほか、期間限定としていた考古資料に直接触れる展示を常設とした。

#### B. 計画的な保守点検

令和5年度目標	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施する。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。
---------	---

自己評価・課題・改善策	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施し、展示ケースの施錠を確認した。
-------------	--

#### C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和5年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの来館者に記入してもらい、統計的な分析が実施できるよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
自己評価・課題・改善策	設置場所の改善とともに受付時に手渡しをする等により、アンケート調査を実施し、展示内容の他についての意見も徴取したが、常設展のみの期間が短いこともあり有効な意見は取得できていない。

#### D. 入館者の常設展示に対する満足度

令和5年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズを把握に努める。その上で、展示内容の変更やスポット展等の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	常設展については、常設展のみの期間が短く来館者も少ないため、有効なアンケート結果を得ることができなかった。より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫する。

#### ②特別展・企画展

##### A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

令和5年度目標	協議会、整備検討会議の意見を受け、適正に実施する。
自己評価・課題・改善策	協議会、整備検討会を各2回開催し、内容説明、意見聴取を行った後、適正に実施することができた。

##### B. 図録・パンフレット等の作成

令和5年度目標	特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレットを作成する。
自己評価・課題・改善策	特別展では図録、ポスター、リーフレットのほか、シンポジウムの子稿集を作成し、企画展ではリーフレット、展示目録等を作成し、配布した。

##### C. 特別展見学者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和5年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの来館者に記入してもらい、統計的な分析が実施できるよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
---------	---

自己評価・課題・改善策	特別展アンケートは、アンケート用紙と投函用の箱を設置して収集した。50%が県外参加者で、小中学生は14%と少なかった。また、HPで知ったという参加者が大半を占め、SNSを使った広報が圧倒的に有効であることを確認した。
-------------	--

#### D. 特別展見学者の展示に対する満足度

令和5年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズを把握に努める。その上で、次年度以降の展示企画の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	期間中に展示室や関連イベントにおいてアンケート調査を実施した結果、展示企画内容については、高校生以上で「とてもわかりやすかった」又は「わかりやすかった」という回答が80%を占めた。また県内外研究者等によるシンポジウム及び関連講座では、専門領域の異なる専門家を招き、さまざまな視点から律令国家成立前夜をテーマとした講演が好評であった。

#### ③県民ニーズに即した運営

##### A. 資料館入館者数：当該年度の入館者

令和5年度目標	前年度比10%増（13,462人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	入館者12,489人（前年比：261人増・102.1%）と増加したが、目標は達成出来なかった。令和元年度の約6割の水準にとどまっていることから、依然、新型コロナ禍の影響が残っているものと考えられる。チラシ等による積極的な周知を図り、入館者数を段階的に増加させ、令和元年度の水準に戻していく。

##### B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

令和5年度目標	前年度比10%増（703千円）を目指す。
自己評価・課題・改善策	入館料収入は、716（千円）となり、目標は達成できた。

##### C. 調査結果を受けた運営

令和5年度目標	イベント開催完了ごとにイベントマニュアルの修正を行い、運営方法の改善を行う。参加者数やアンケート分析結果をもとに、イベント種別・開催回数の変更を行う。
自己評価・課題・改善策	イベントマニュアルを活用し各種イベントを実施しながら適正な館内運営を行った。今後もアンケート結果及び館内利用者の意見から得られる改善点を取りまとめ、イベントの種別・開催回数等、館内運営の向上に努める。

#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

<p>館長による所見</p>	<p>コロナ禍の影響により、遠足受入やイベントの大半を制限してきたが、令和5年度からは学校の遠足対応やモノづくり体験、ふどきっずなど、学習支援・教育普及活動をコロナ禍以前の状態に近づけるべく活動した。その結果、来館者、イベント参加者は増加した。ただし、小学校を主とする団体利用数は減少しており、この原因・背景について分析する必要があると感じている。</p> <p>人材育成につながる業務として、博物館実習・インターンシップ・教員研修の受入やジュニア学芸員の募集・発表・展示等を実施した。</p> <p>また、和歌山市立西和佐小学校とのジョイント企画は新しい試みで、双方にとって有意義なものであり、学校・団体との今後の連携を考える上で重要な事例となった。</p> <p>今後は新館建設に伴う令和8年度からの閉館と令和10年度新規開館及びその間の紀伊風土記の丘の活動について検討を進めていく必要がある。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>普及啓発事業は、中期的展望のなかで計画立案から始めることに期待したい。閉館中は新館展示の準備等で業務多忙になるが、県民にはその姿が見えないことになる。閉館中の館としての諸活動、新館に関する情報提供などの計画を立てることが必要である。</p> <p>今は新館のスタート後を視野に入れて、新しい企画の試験的導入及び活動の拡大を検討してもいいのではないか。参加人数は少なくても、将来の学芸員養成など人材育成につながる事業はしっかり進めてほしい。これは県が設置する公立博物館の責務といえる。</p> <p>専門的な知識をもつ学芸員以外に、普及活動の中心となる人員の配備が、人材の効率的活用という点からは望まれる。</p> <p>数値目標が活動の「足枷」になることを懸念している。本来博物館事業は行政評価の数値目標だけでは計れない。「人口減少社会」に入っており、「何%増」という目標は適切なかどうか、根拠を明らかにしておくべきである。目標値も、量を問題にするのか質を問題にするのかなど、博物館運営に関する理念を整理することも必要なのではないだろうか。</p>

#### ①学校・団体の利用

##### A. 学校・団体の受入数、受入人数（一般団体を除く）

<p>令和5年度目標</p>	<p>前年度比10%増（130団体・6,653人）を目指す。</p>
----------------	------------------------------------

自己評価・課題・改善策	来館は、91 団体（前年比：17 団体減・84.3%）・4,879 人（同：1,204 人減・80.6%）となり、目標を大幅に下回った。少子化の影響により、遠足を行わない学校も増加している。
-------------	---

B. 出前授業の件数、利用者数

令和 5 年度目標	前年度比 10% 増（19 団体）を目指す。
自己評価・課題・改善策	出前授業数は 18 団体とほぼ横ばいだった。市町村教育委員会等への広報を改善し、団体数増加を目指す。

C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数。

令和 5 年度目標	中学生及び高校生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる。
自己評価・課題・改善策	中学生職場体験など 29 名（前年比：29 名増）、高校生インターンシップ 3 名を受け入れた。

D. 利用者の満足度、ニーズ

令和 5 年度目標	遠足等実施前後に教員等から申込方法、遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校を訪問した際、校長等から聞き取りを行い、遠足実施の評価や新たなニーズを把握し、申込方法や運営方法の改善を行う。
自己評価・課題・改善策	事前打ち合わせ及び体験実施後に聞き取りを行った。体験学習等に関する改善要望は特になく、学習のねらい、内容のニーズに答えられている。今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行うとともに、申込方法の改善を検討する。 和歌山市立西和佐小学校 6 年生の児童が国語科「町の幸福論」単元において、地域住民間の交流する場として当館及び特別史跡岩橋千塚古墳群を活用し、古墳群の価値を周知する方法を提案する取り組みを実施した。当館においても新館建設を含む紀伊風土記の丘再編整備に対する近隣住民のニーズを把握することができ、双方にとって満足度の高い企画となった。

②講演会・博物館講座・展示解説等

A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数

令和 5 年度目標	20 回以上、実施する。
自己評価・課題・改善策	目標の 20 回（前年比：130%、講座、フィールドワーク含む）を開催した。令和 5 年度より会場収容人数の制限を解除した。

B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

令和 5 年度目標	募集定員の 50% 以上（前年度目標並み）を目指す。
-----------	----------------------------

自己評価・課題・改善策	569人（前年比：113%、講座、フィールドワーク含む）と参加者は微増であったが、割合で見ると募集定員の64%を占めた。ボランティア養成講座への参加は少なく、広報等工夫が必要である。
-------------	---

### C. 参加者の満足度、ニーズ

令和5年度目標	アンケート及び、講演等終了後直接聞き取りにより把握し、申し込み方法や運営方法の改善を行う。アンケートでは高満足度（5区分のうち上位2区分）80%以上獲得を目指す。
自己評価・課題・改善策	講座・講演会ごとにアンケートを実施した。ほとんどの講演会等で80%を超える満足度が得られた。この満足度を維持していくとともに参加人数増加を目指していく。

### ③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム。

#### A. 体験学習等の回数

令和5年度目標	45回以上、実施する。
自己評価・課題・改善策	モノづくり体験イベントの回数を見直したことにより、回数は減少したが、天候不順による中止もなく、目標の45回を開催した。

#### B. 体験学習等の参加者数

令和5年度目標	募集定員の80%以上（前年度目標並み）を目指す。
自己評価・課題・改善策	夏休み期間中のイベント告知を県内全小・中学生に行った結果、参加者数は1,361人（前年比：122.2%）と増加した。募集定員に対する参加者割合は70%で目標を下回った。募集定員の見直しも検討していく必要がある。

### C. 参加者の満足度、ニーズ

令和5年度目標	アンケート及び参加者に直接聞き取りにより把握し、申し込み方法や運営方法の改善を行う。アンケートでは高満足度（5区分のうち上位2区分）80%以上獲得を目指す。
自己評価・課題・改善策	体験イベントごとにアンケートを実施した。ほとんどの体験学習等で80%を超える満足度が得られた。特にGWと夏休みのモノづくりは満足度90%以上と非常に高い。「チャレンジ！ジュニア学芸員」は、課題の抽出、検討、資料の取りまとめ、研究発表で構成され、人材育成に不可欠な内容を多数含んでいることから、当館としてもより多くの小中学生に取り組んでもらいたいイベントである。しかしながら実際に経験した参加者の満足度は高いものの、例年応募者数が少ない傾向にある。他のイベントも含め、参加者のニーズや満足度等のアンケート結果を分析し、引き続き広報、イベント内容・回数等改善の検討を進める。

#### ④博物館実習

##### A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

令和5年度目標	人員や日程等を鑑み、可能な範囲で博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古学・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高めてもらう。
自己評価・課題・改善策	8月に博物館実習3名、大学生インターンシップ1名の受け入れを行い、実際に収蔵考古民俗資料に関するミニ展示について企画・展示作業を行った。

#### ⑤ボランティア

令和5年度目標	ボランティア養成講座により新たなボランティアを募集・養成するために、養成講座の実施・広報時期などを再検討する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。
自己評価・課題・改善策	ボランティア養成講座を開催し、1名のボランティアを養成した。ボランティア活動の実態を広く周知しその魅力を理解してもらうことにより、養成講座への参加者を増やしていきたい。

#### ⑥県内博物館施設との連携

##### A. 連携事業の実施

令和5年度目標	スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。
自己評価・課題・改善策	コロナ禍明けということもあり、風土記まつりは規模を縮減して開催したが、図書館を含めた県立5館と（公財）和歌山県文化財センターが連携する場をつくることができた。

#### ⑦県民ニーズに即した運営

##### A. 入館料以外のその他の収入

令和5年度目標	前年度比10%増（3,611千円）を目指す。
自己評価・課題・改善策	図録販売のほか、出前授業の実施や勾玉キットなど自宅で体験できるものを販売し、3,248（千円）の収入を確保したが、目標は達成出来なかった。

##### B. 上記結果を受けた運営

令和5年度目標	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。
自己評価・課題・改善策	コロナ禍の状況を念頭に置いて、対処した。

## 5. 博物館の運営

<p>館長による所見</p>	<p>紀伊風土記の丘の新館建設計画については、造成、建築、展示・収蔵設備の実施設計を行ったほか、古墳群の整備事業やホームページ・3Dコンテンツの作成・公開を実施した。今後も、新館建設関連のソフト事業を着実に進める。</p> <p>コロナ禍のため、イベント参加者数の制限を実施していたが、イベント定員数を増やしたことから、参加者数は増加した。今後も工夫しながら博物館活動を続ける。3Dコンテンツについては、ホームページからも順次直接閲覧できるよう公開を進めているところである。</p> <p>また、本来の目的であった博物館施設と特別史跡の範囲拡大、研究機能の強化及び教育普及活動の充実化を実現できる新館開館後の人員体制を構築しなければならない。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>特別史跡と一体化した博物館であることが、当館の最大の魅力といえる。博物館施設の新設と特別史跡の範囲拡大、研究機能の強化及び教育普及活動の充実化を図り、その魅力を大いに発揮するために人員体制の充実は必須である。そんな中、新館建設という短期計画、中長期的展望の中で博物館への適切な人員配置に対する考え方について、本庁と協議する必要があるのではないだろうか。</p> <p>また、3Dコンテンツについては、館のホームページから直接リンクできるよう計画しているようだが、一般の方々が利用しやすい形で公開してほしい。</p> <p>古民家のメンテナンスは多くの労力と費用を要するが、補修の遅れは資料的価値の急激な低下を招く。活用を担保するためにも補修時機を逸しないよう努めていただきたい。</p>

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

<p>令和5年度目標</p>	<p>紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。</p>
<p>自己評価・課題・改善策</p>	<p>当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し4月の全体会議で職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーでは大規模に防火訓練を行い、有事の際の役割、動きの訓練を行った。</p>

B. 個人情報の適切な保護・データ管理

令和5年度目標	和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。
自己評価・課題・改善策	和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施した。

C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

令和5年度目標	職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。
自己評価・課題・改善策	教育庁及び館内の人権研修を受講し情報共有を行った。専門的な研修として、文化庁主催の文化財保護行政講座や和歌山県教育庁主催担当者会議などに出席した。

②県民ニーズに即した運営

A. 園内利用者数：当該年度の利用者数

令和5年度目標	前年度並み（19万7千人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	176,024人（前年度比：21,672人減・89.0%）。入館者数は微増しているものの、園内利用者数は減少した。今後も魅力ある史跡整備、広報に努める。

B. 民家利用件数：当該年度の利用件数

令和5年度目標	受け入れ可能な環境を整え、適切な利用目的の申請があった場合、許可する。利用件数、前年度比10%増（1件）を目指す。
自己評価・課題・改善策	コロナ禍のため利用者数が減少していた。利用再開に備え、職員による日常的な目視点検及び必要に応じて修繕を継続実施した。利用件数は5件へ拡大し目標値を達成した。

③施設設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

令和5年度目標	建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施。
自己評価・課題・改善策	日常的に職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録。令和5年度は、建築基準法や消防法に基づく定期点検業務に加え、空調機器のフロン点検も実施した。

B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和5年度目標	館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善策	日常的に職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕を行った。

C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

令和5年度目標	館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。
自己評価・課題・改善策	今後も引き続き、来園者、来館者に安心安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行った。令和5年度は柳川家の外壁修繕を行った。 葺き替え時期を超え早急な修理が必要であった復元竪穴建物は、令和5年度に屋根の葺き替えを完了した。台風により棟飾りが破損した旧谷村家の屋根については予算確保が間に合わず、令和7年度以降に実施予定である。

D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

令和5年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設実施設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。
自己評価・課題・改善策	新博物館建設に係る造成、建築、展示工事の実実施設計を完了した。開館前の令和8年度中に特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画の改定を予定しており、その基本方針等について検討中である。新博物館、特別史跡及び移築民家の保存と活用方針を実現できるよう整備計画等を検討していく。

④快適性の向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

令和5年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。
自己評価・課題・改善策	現施設では、可能な範囲で合理的配慮を心がけ対応した。新館ではインクルーシブデザインを基本コンセプトとし、様々な利用者が使いやすい博物館となるよう実施設計を行った。

B. 快適性の向上について上記以外の整備

令和5年度目標	県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。
自己評価・課題・改善策	園路等公園としての整備だけでなく、平成28年に特別史跡に追加指定された天王塚古墳の新規整備や竪穴系石室の不具合解消及び活用を図るための再整備等、公開地区の古墳整備についても積極的に取り組み来園者の満足が得られるよう事業を進めている。

⑤民家

A. 計画的な公開

令和5年度目標	恒常的に清掃を行い、案内資料において、引き続き入りやすい落ち着いた空間としての状態を保つ。
自己評価・課題・改善策	日常的な管理を行い、公開を行っているほか、民家ガイドツアーを1回開催した。ガイドツアーへの参加者増への対策が課題である。

B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

令和5年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設実施設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を具体的に検討する。
自己評価・課題・改善策	令和5年度に新館建設実施設計を完了した。令和4年度からは特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画の改定に必要な関係者会議を立ち上げ、令和6年度にその方針を取りまとめる予定である。令和8年度策定を目指すこの保存活用計画において、新館と民家の保存と活用方法についても具体的に検討する。

⑥広報・情報発信等

A. 県民からの直接的情報提供：問い合わせ（電話、来館等）に対する適切な対応

令和5年度目標	相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。
自己評価・課題・改善策	個々の問合せを適切に対応し、特に問題はなかった。今後も相談内容の共有・蓄積をし、引き続きこれまで同様丁寧な対応を行う。

B. メディアへの情報発信

令和5年度目標	各月ごとに加えて参加者が少ないと見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。
自己評価・課題・改善策	各イベントを報道関係に資料提供した結果、テレビ、新聞等で20回取り上げられた。

C. ホームページによる広報：ホームページアクセス件数、更新回数。

令和5年度目標	ホームページ及び Facebook の閲覧数ともに令和元年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。ホームページの充実のために、動画公開を進める。
自己評価・課題・改善策	ホームページに動画を投稿して、園内案内や埴輪・勾玉の作り方を公開している。また、Facebook や Twitter で月に3～5回情報発信をし、好評を得ている。

D. 広報印刷物の制作：ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

令和5年度目標	イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成し、1,500件以上に配布する。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成する。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布する。
自己評価・課題・改善策	イベントガイド等チラシ・ポスター作成を行い、前年度とほぼ同数を和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布するなどして、周知を図った。また、夏休みのイベントチラシについては、県内全小中学生全員に約60,000枚を配布した。遠方からの参加者もあり一定の効果が認められた。さらに、市町村校長会にて、当館実施イベントの説明を実施した。

E. 使命、目標、計画等の公開

令和5年度目標	ホームページに公開する。
自己評価・課題・改善策	ホームページで博物館評価制度、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画書（改訂）及び基本設計の概要を公開した。